

特別講演Ⅱおよびパネル

琉球銀行の取り組みと地域金融の在り方

【趣旨】

地方経済の疲弊に関する懸念が高まる中、地域金融機関がいかに関与し、それぞれの地域経済の持続的発展を主導あるいは下支えしていけるのかは、現下の日本の最重要課題の一つである。当セッションでは、地域金融機関が沖縄県を含めた地域の発展や多面的な課題克服に、どのような役割を果たしていくことができるのかに焦点を当てる。

当セッションの前半では、沖縄県を代表する地方銀行の一つである琉球銀行の川上 康 代表取締役会長をゲストとしてお招きして、「沖縄県とともに歩む琉球銀行の近年の取り組み」と題する特別講演をお願いしている。この講演では、沖縄経済の現状を踏まえたうえで、琉球銀行が近年どのような業務を推進してきたのか、琉球銀行の財務パフォーマンスはどのように推移しているのか、そしてホットイシューでもある金利ある世界への対応や気候変動問題への取り組みなどを含めて、琉球銀行の近年の取り組みが紹介される予定である。

当セッションの後半のパネルでは、地域金融分野の3名の専門家をお招きし、冒頭でそれぞれの専門分野に関して、次の通りプレゼンテーションがなされる。

- 小倉 義明（早稲田大学）「中小企業の無形資産投資と地域金融の役割」
- 植杉 威一郎（一橋大学）「日本における中小企業金融の現状と課題」
- 家森 信善（神戸大学）「地域金融機関による中小企業の脱炭素化への取り組み」

そののち川上 康 氏を含めた4名で、「沖縄を含めた地域金融の在り方」というテーマで、地域金融の多面的な課題や将来展望に関してパネル・ディスカッションが展開される。

文責：花崎 正晴（当セッション座長、埼玉学園大学）